

災害時における住民の情報取得態度の規定要因に関する研究

群馬大学大学院 学生会員    〇児玉 真    群馬大学工学部 正 会 員    片田敏孝  
高松工業高等専門学校 正 会 員    及川 康    群馬大学大学院 学生会員    岩崎隆雄

1. はじめに

近年では、災害予測技術や情報伝達メディアの進展により、多くの災害関連情報が開示されている。特に、豪雨災害時には、テレビやインターネット等を通じてリアルタイムで気象情報や河川情報が取得できるような状況となっている。しかし、行政や専門家が住民への災害情報の提供の必要性を感じ、情報を公開しても、情報の受け手である住民がその情報を積極的に取得しようとする意思がなければ、情報発信者の意図は伝わらない。従って、災害情報の伝達においては、適切な情報伝達体制が整備されていることのみならず、情報を積極的に取得しようとする住民の情報取得態度が形成されていることが重要である。

本研究では、平成14年7月の台風6号による福島県郡山市の豪雨災害を事例として、豪雨災害時における住民の情報取得態度に着目し、その実態およびそれを規定する要因との関係構造を明らかにする。

2. 調査概要

平成14年7月に本州に接近した台風6号によって、福島県郡山市では豪雨災害に見舞われた。このとき、市内を貫流する阿武隈川では、破堤こそしなかったものの、計画高水位まで30cmという水位まで上昇した。このような水位の上昇に伴い、郡山市では避難準備、避難勧告、避難指示が順次発令された。

調査概要は表-1に示す通りであり、調査対象地域は豪雨災害による浸水被害地区を中心に抽出した。主な調査項目は、気象情報や河川情報の取得行動の実態、過去の水害経験、平時における災害情報の取得態度などである。

表-1 調査概要

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 調査対象地域 | 福島県郡山市阿武隈川流域      |
| 調査期間   | 平成14年9月16日～10月17日 |
| 調査方法   | 教官・学生による訪問配布・郵送回収 |
| 配布数    | 2,995票            |
| 回収数(率) | 337票(11.3%)       |

3. 災害時情報取得態度の実態

本研究では、住民の豪雨災害時における情報取得態度（以下、「災害時情報取得態度」）を、テレビなどで気象情報や災害情報を積極的に収集する行動（以下、「気象・災害情報の取得行動」）と阿武隈川の水位に注目し始めた時期（以下、「阿武隈川の水位に注目」）の実態をみることで把握する。

図-1は、台風6号による豪雨災害時における(a)気象・災害情報の取得行動の開始時間、(b)河川水位に注目し始めた時間の分布をそれぞれみたものである。これによると、7月10日の夕方から深夜にかけてのテレビでのニュースや気象情報をきっかけとして情報収集を開始した住民と、11日未明に発令された避難情報をきっかけとして情報収集を始めた住民が存在していたことがわかる。

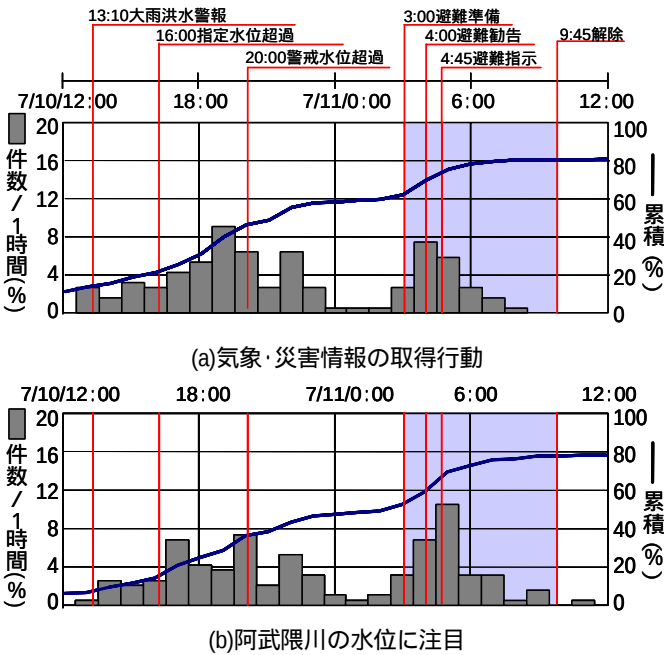


図-1 災害時情報取得態度の実態

4. 災害時情報取得態度の規定要因

次に、災害時情報取得態度と、それを規定すると考えられる要因との関係を図-2より明らかにする。なおここでは、紙幅の都合により、図-1(a)で示した気象・

災害情報の取得行動と、表-2 に示す項目のうち色を付した3項目との関係をそれぞれ示す。

(a)災害知識との関係

図-2(a)は、平成 10 年水害の経験属性と気象・災害情報の取得行動の関係をみたものである。これによると、過去の水害で被災したという住民ほど実施率が高く、また取得行動の開始時期も早い。なお、昭和 61 年水害の経験についても、これと同様の傾向がみられた。さらに、郡山市で公表された洪水ハザードマップの閲覧との関係では、ハザードマップを見たという住民ほど情報取得行動の実施率が高いことが確認された。

(b)平時情報取得態度との関係

災害時の情報取得態度は、平時から災害について関心が高い住民ほど形成される傾向が強いものと考えられる。図-2(b)は、平時における水害に関する新聞記事の閲覧実態と気象・災害情報の取得行動との関係をみたものである。これによると、日頃から水害に関する記事をよく読むという住民ほど、災害時における情報取得行動の実施率が高いことがわかる。

(c)水害危険性認識との関係

図-2(c)は、自宅の床上浸水の可能性に対する認識と情報取得行動との関係をみたものである。この図から、自宅は水害時において床上浸水する可能性があることと認識している住民ほど情報取得行動の実施率が高いことが読みとれる。

5．災害時情報取得態度の規定要因に関する共分散構造モデルの構築

以上の結果をふまえ、災害時情報取得態度とその規定要因との関係構造を、共分散構造モデルを構築することによって明らかにする。なお、ここでの分析で用いる観測変数、潜在変数は表-2 に示す通りである。

共分散構造分析によるモデルの推定結果を図-3 に示す。この図から、災害時情報取得態度は、災害知識、水害危険性認識によって直接的に規定されていること、また、水害危険性認識は災害知識や平時情報取得態度によって形成されていることが読みとれる。さらに、ここで得られた推定結果に基づくならば、平時情報取得態度は、水害危険性認識を介して災害時情報取得態度に影響を与えていることが推測される。

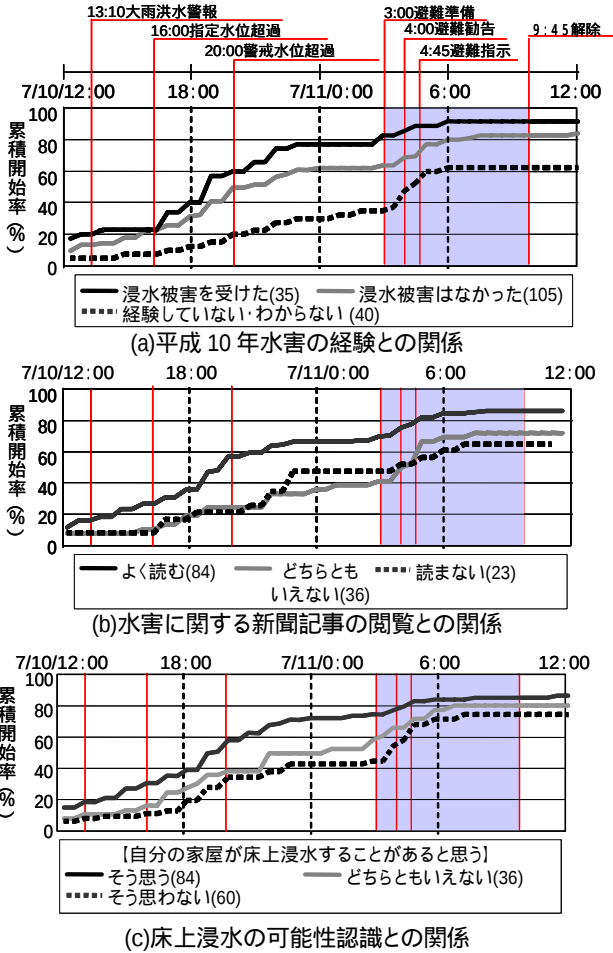


図-2 気象・災害情報の取得行動とその規定要因との関係

| 観測変数, 潜在変数           | カテゴリー                                                           |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 【災害時情報取得態度】          |                                                                 |
| 気象・災害情報の取得行動         | 1. 避難準備発令前から情報を収集し始めた<br>0. 避難準備発令前からは情報を収集しなかった、<br>情報を収集しなかった |
| 阿武隈川の水位に注目           |                                                                 |
| 【災害知識】               |                                                                 |
| 平成10年水害の経験           | 1. 経験した<br>0. 経験していない                                           |
| 昭和61年水害の経験           |                                                                 |
| 改訂版洪水ハザードマップの閲覧      | 1. 見ていた 0. 見ていない                                                |
| 【平時情報取得態度】           |                                                                 |
| 水害に関する新聞記事の閲覧        | 1. 読まない - 2. どちらともいえない - 3. よく読む                                |
| 水害に関する本などの情報収集       | 1. 調べない - 2. どちらともいえない - 3. よく調べる                               |
| 水害に関するニュース・番組の視聴     | 1. 見ない - 2. どちらともいえない - 3. よく見る                                 |
| 【水害危険性認識】            |                                                                 |
| 床上浸水の可能性認識           | 1. そう思わない<br>2. どちらともいえない<br>3. そう思う                            |
| 自分の家屋が床上浸水することがあると思う |                                                                 |
| 地域の水害危険性認識           |                                                                 |
| (今住んでいる地域は水害が起こりやすい) |                                                                 |

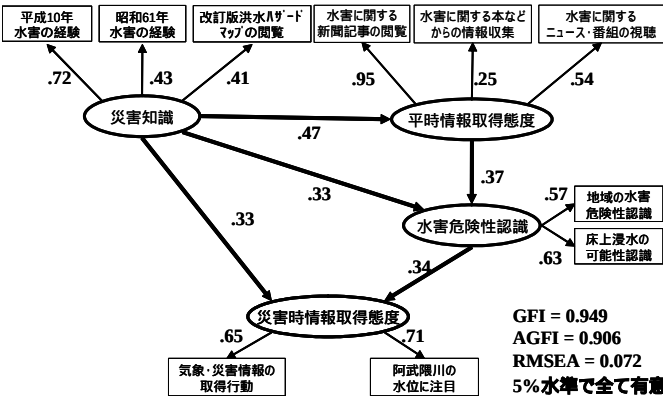


図-3 共分散構造分析によるモデルの推定結果